

メガソーラー発電所に採用

らくらくアルミニウムケーブル

古河電工

古河電工と古河電工産業電線、SFCCは、高性能型低圧アルミ導体CVケーブル「らくらくアルミニウム」が、メガソーラー発電所に採用された。近年多発する銅線の盗難に對する防止策として、アルミニウム導体の有用性が期待されている。

メガソーラー発電所をはじめとする産業用太陽光発電所は、敷地が広い上に無人で、近隣に人家や人通りの少ない立地が多いことから、銅線の転売を狙ったケーブルの盗難が絶えず、問題となっている。ひとたび盗難に遭えば、修

理費用がかさむだけでなく売電収入にも大きく影響するため、早期に復旧する必要がある。



導体にアルミニウムを採用し、ケーブルシースが青く、銅導体CVケーブルとの識別が容易な「らくらくアルミニウム」は、盗難防止効果が期待でき、また「軽い」「簡単」「柔らかい」といった特長は、早期復旧を望む現場の作業効率改善に貢献する。施工を行った電気工事業者からは、「延線作業はパワーボルトといった機材は使わずとも人力のみで予定通り終わらせることができ、ケーブル自体も軽くて柔らかく、扱いやすいのは驚いた。これだけの量を人手で延線するのは他のケーブルでは難しい」と好

トラフ内での接続処理

評を得ている。産業用太陽光発電所の建設は、今後とも堅調に推移することが予想されている。同製品は、この他の産業用太陽光発電所への採用も決まっております。今後、太陽光発電所建設での省力化、省人化、更には運転中の盗難防止に貢献していく。なお、近年、建設現場では人

手不足や高齢化が深刻化しており、作業の省力化の必要性が一段と高まっている。今回の案件を含め、これまでに100件を超える建設現場での実績は、「らくらくアルミニウム」が働き方改革の実現に貢献する材料であることを証明している。今後、同製品の売上高を24年度までに20億円に拡大する計画としている。

